

### 1 秩父夜祭の概要

秩父の総社である秩父神社の例大祭である秩父夜祭は、京都祇園祭、飛騨高山祭と並び日本三大曳山（ひきやま）祭の一つであり、例年12月2日に“宵まち”、3日に“大祭”が行われる。宵まちは、午後から町場3町による屋台の宮参りが行われ、3日は、市街地曳行、曳き踊り、午後からは屋台芝居が上演される。夜1900から秩父夜祭のクライマックスである神幸祭が開始され、その後を提灯と雪洞をつけた2台のかさ鉾、4台の屋台の巡行が行われる。これに機を同じくして、芝桜で有名な羊山公園で数千発の花火が打ち上げられる。圧巻は団子坂の急坂を御旅所まで一気に曳き上げる場面である。

本年は、大祭が日曜日であったために、観客が27万人に及んだと言う。



(秩父神社)



(曳航される屋台)

### 2 ツワー概要

日曜の朝10時に、集合してバスにて秩父に直行、旅行会社契約の市内某セメント会社の敷地内で下車、徒歩で巡行経路上の栈敷席に前進。決して安くはない旅行代金なので、特等席である。鉾や屋台の巡行までに数時間あるので、秩父神社や祭会館を見学する。祭囃子が響いてくる。残念ながら屋台芝居は神社境内のみで、全てを見て回れなかった。寒さ凌ぎのために甘酒やワンカップで体内から暖めつつ、巡行を待つうちに花火が打ち上げられ、神幸祭行列が渡御を始める。笠鉾2基に引き続いて屋台6基が御旅所への約1kmの道を巡行するのを待ち受ける。

最後の屋台が御旅所に到着して、帰途の準備を始める。2330出発であるが、翌朝始発電車時間に間に合わせるために数時間の時間調整を余儀なくされる。バスの中でゆっくり寝られるものではない。帰宅して寝直したのは言うまでもない。

### 3 豪華絢爛

例大祭の付祭としての笠鉾・屋台の曳行をはじめとする屋台行事が始まったのは、近年の研究によれば享保年間（1716～36年）であるらしい。南北に延びる秩父往還の両側には絹仲間買商を始め多くの商家が軒を並べていた。屋台行事を行う6つの町内（中近、下郷、宮地、上町、中町及び本町）が贅を尽くして笠鉾や屋台を作成したのであろう。

写真でその一端を紹介しよう。



(秩父神社境内)



(祭会館にて)



(同左)

#### 4 花火と神幸の競演

あるHPによれば、屋台行事を主催する町会と観光協会は色々な確執があったようだが、観客にとって見れば、花火と屋台の競演は最高の演出である。屋台の巡行にあわせて、タイミングよく各種の花火を打ち上げる。小生らが居た栈敷の近くでギリと称する屋台の方向変換が行われるがそのタイミングに併せて打ち上げられた花火と屋台の提灯や雪洞の競演は次の写真のとおりである。カメラの腕が拙いので感動を伝えられないのが残念である。



(笠鉦と花火)

(屋台と花火)

#### 5 秩父雑学

##### ① 日本100観音霊場

西国33箇所及び板東33箇所観音霊場巡りと秩父34箇所観音霊場巡りで、日本100観音霊場巡りとなる。西国巡りは満願しているので、他の箇所を時間を掛けて巡りたいものである。

② 乳銀杏

秩父宮妃殿下がお手植えになった銀杏の原初的種である乳銀杏である。根元付近にある乳房が垂れ下がったような物が御確認頂けるだろうか。



③ 標高の低くなった武甲山！

秩父三社(秩父神社、宝登山神社、三峰神社)の秩父神社は聖地武甲山を遥拝する聖地であった。が、武甲山がセメントの原材料である石灰岩の山であることから、削り取られて今では標高が40m以上も低くなった由である。